



田中 圭介さん (30歳) (営農地／久留米市田主丸町)

夢を語れる農業経営を目指したい

《就農のきっかけ》

就農は自然な流れ、 改めて特別な意識はしなかった

高校生のとき既に就農を決意していて、小さい頃から農業を手伝う事は「当たり前」であらたまって農業後継者になるって意識は全くなかったそうです。その当時から、農業の可能性・将来性に魅力を感じており、将来の就農・農業経営者を目指して、大学は経済学・流通学を専攻。農業分野以外のネットワーク作り・異業種との連携を視野に入れ進学した田中さん。

大学を卒業し、すぐに就農。露地野菜の周年出荷の経営に飛び込み、年間を通して圃場が空かない様に多くの品目を作付しています。

《これまでの過程》

就農して取り組んだこと

農業は楽しい。しかし、豊作になり過ぎて単価下落により、せっかく作った野菜を圃場廃棄しなくてはいけない時もありました。また、近年の異常気象や温暖化により、作付計画どおりに出荷出来ない事もあり、改めて生き物相手の仕事の難しさを痛感しています。

農業経営は、圃場を空けず1年を通して作物を作付する事が重要と考え、夏場に葉菜類の代わりに枝豆を導入したり、JAから委託された水稲箱苗の生産(約50ha分)等周年出荷と年間の作業ローテーションの効率化に苦心しています。父親も自分が就農して楽になるかと思っていたが、規模も作物も増えかえって忙しくなったと言うくらいだそうです。

リーフレタスと金時ニンジンの出荷が重なる年末など農繁期の時期は横になる間が無いくらい忙しくなります。雇用もパートを20名ほど雇いますが、8月など作業が全くない時期もあります。

規模拡大も回りながら周年出荷の出荷精度を高め、収益の安定と雇用の安定に努めているところです。



プロフィール

■家族構成／父、母、本人、妻、子ども2人 ■営農年数／約8年
■耕作(経営)面積／約8ha ■販路／JA共販、市場

《これからの展望》

企業的農業の確立 ～農業で儲ける!!～

年間で出荷が無い時期が8月～10月までである。この期間は売上が無いため、有望な品目があれば積極的に導入して行きたい。また、現在取り組んでいる苗物(米箱苗、タマネギ苗)は価格の変動が少なく、確実に揃え出荷する技術があれば経営的に有望です。露地で圃場を周年で活用し、圃場が空かない様な作付計画と出荷管理を迫りて行きたいと考えています。そのためには、家族労働力では限界があります。将来的には周年を通した常雇用の労働力が必須となり、農業経営者としての新たな仕事・労務管理が発生します。

また、農業経営の法人化や飲食店との直接契約等の6次産業化、独自ブランド(加工所や配送トラックに独自のマーク等)の確立にも力を注いでいきたいと考えており、若者をたくさん雇えるような、収益率の高い企業的農業を実践し、地域にも貢献して行きたいと考えています。「作物を作る人と買う人が交流できる場」の提供、農業者の農業への想いを伝える情報発信を常に心がけて行きたいと考えます。



Good👍 成功の ためのポイント

農業者が、夢を語れる農業経営を目指すこと。将来に、明確なビジョンを持つことが必要です。大学まで続けてきた競泳のコーチに言われた「夢と目標は明確に!」これを実践していくことです。明確なビジョンがあれば、今しなくてはならないことが見えてくるはずです。